

第 18 卷 PDF 読本



高山本線（岐阜～富山）

2024年7月10日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 高山本線（岐阜～高山：営業キロ 136.4 km）・・・5

第2章 高山本線（高山～富山：営業キロ 89.4km）・・・102

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 13 弾目として、東海道本線や元北陸本線などに接続する、岐阜県・富山県を走る、高山本線の旅（営業キロ 225.8 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 27 作目の節目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「榎原勉文庫拡充」にて、次の PDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第 57 編（日本横断歩き鉄の旅）

高山本線



2024年7月9日 歩く鉄道作家 榎原 勉

第1章 高山本線（岐阜～高山：営業キロ 136.4 km）

第1節 概要

2024年3月13日（水）からの6泊7日の高山本線の旅、飛騨川に沿った起伏の激しい環境の中であったが、天や神のご加護を得て、天気にも恵まれ、この本線（高山～岐阜：営業キロ 136.4km）に登場する各駅舎（26 駅舎）を立ち寄りにより無事成功する。これで通算営業キロは、**1万5千543 km（活動日数766日、日本の鉄道の56.1%、地球円周の38.8%）**となった。

今回の旅で印象に残る主な特筆事項は次の通り。

①2000年5月のウォーキング開始以来、初の雪路を歩く事態となった。雪路で注意力が散漫となり、誤って歩行者禁止のトンネルに踏み入れる場面も生じた。



②ビジネスホテルだが、下呂温泉に5泊も逗留できた。季節外れの花火を楽しむことができた。



③飛騨川に沿った木曾川飛騨国定公園は、どこまで行っても山また山、川また川であったが、最高の風光明媚な環境で旅を楽しむことができた。



④26 駅者登場する中で、今回の旅も珍名の駅舎名が古井（こび）、坂祝（さかほぎ）と 2 駅舎あった。

⑤飛騨宮田駅への道筋、飛騨川に遮られ、引き返す事態が生じた。このため、営業キロ 3.4km の区間に対し、2 時間 32 分要した。昨年 8 月歩いた磐越西線での津川駅から三川駅に向かう際の行き止まり事件を思い出した。この時も阿賀野川に遮られ引き返す場面が生じた。



⑥飛騨小坂駅界限で、路を訪ねた際、私の 3 点セットに感動され、菓子パンを頂く場面もあった。東北本線や山陽本線の踏破の際、お世話になった懐かしい出来事を思い出した。

⑦名古屋駅で特急ひだ 11 号に乗車する車両を誤って、発車時刻数分前に移動する場面にも遭遇した。

第2節 旅プラン

高山本線（高山～岐阜：営業キロ 136.4 km）

○2024年3月13日（水）晴れ

ひかり 639号 新横浜 10:51 → 名古屋 12:14

ひだ 11号 名古屋 12:48 → 下呂 14:28

下呂泊（ビジネスホテルプランタン：0567-25-2051）



○3月14日（木）晴れ

下呂 6:24 → 高山 7:29

高山～飛騨一宮～久々野（くぐの）～渚（20.5 km）

渚 15:22 → 下呂 16:01

下呂泊

○3月15日（金）快晴

下呂 6:24 → 渚 7:05 （ダイヤ 25分遅れ）

渚～飛騨小坂～飛騨宮田～上呂～飛騨萩原～禅昌寺～下呂（27.6 km）

下呂泊

○3月16日（土）快晴

下呂 6:26 → 上麻生 7:19

上麻生～白川口～下油井～飛騨金山（23.5 km）

飛騨金山 16:45 → 下呂 17:06

下呂泊

○3月17日（日）曇り

下呂 6:26 → 飛騨金山 6:49

飛騨金山～焼石～下呂（21.6 km）

下呂泊

○3月18日（月）晴れ

下呂 6:26 → 上麻生 7:19

上麻生～下麻生～中川辺～古井～美濃太田～坂祝（さかほぎ）～鶺沼（25.9 km）

鶺沼 15:42 → 岐阜 16:03

岐阜泊（コンフォートホテル岐阜：058-267-1311）



○3月19日（火）晴れ

岐阜 7:11 → 鶺沼 7:42

鶺沼～各務ヶ原～蘇原～那加～長森～岐阜（17.3 km）

岐阜 14:08 → 名古屋 14:28

ひかり 654号 名古屋 15:31 → 新横浜 16:53

第3節 1日目：3月13日（水）：移動日 晴れ

2024年3月13日（水）晴れ、高山本線の旅の一日目は、下呂までの移動行程。新幹線の車窓から雪化粧の富士山を鑑賞しながら名古屋駅に向かう。名古屋駅でひつまぶし弁当を購入して、特急“ひだ11号”に乗り込む。しかし、3号車両のところ、誤って8号車両に乗り、弁当を食べようとした瞬間、別の乗客が訪れ、誤った車両に乗車したのに気付く。ホームに記した号車番号を見て乗ったのが大失敗だった。弁当を再度密封して、3号車に移動する。発車2分位前に指定席に到着できる。



※新横浜駅、新富士駅界隈の富士山



※名古屋駅



※ひつまぶし

岐阜駅からの高山本線は生まれて初めて乗る路線のため、車窓からの風景は新鮮で、その風景を鑑賞しながら、下呂駅まで移動する。名古屋駅から岐阜駅までは、東海道本線の線路を利用のため、座席に対しバックする方向で進行する。岐阜駅からは高山本線となるため、正常な方向での進行となる。車内放送で犬山城などの観光名所の案内を受けながら下呂駅まで案内頂く。岐阜から暫くは平野を走るが、古井駅（こび）辺りから山が登場し、上麻生駅を過ぎた辺

りから本格的な山間に突入する。焼石駅で対向列車を待ち合わせのため暫く停車。下呂駅には14時28分に到着。



※車窓からの風景



※特急”ひだ11号”



※下呂駅

ホテルには15時前に到着したため、荷物を預かってもらい、下呂温泉街を散策する。JR線下を潜り、下呂大橋を渡った先に、下呂温泉の大半があった。橋の手前のお土産屋に立ち寄り、少し早い土産を購入する。沢山の外国人観光客を至る所で見かける。ホテルには16時前に戻り、ホテル5階にある温泉に浸った後、大相撲を見ながら寛ぐ。ホテルから紹介された店のうち、”さんとく”で明日からの英気を養う。この店で、地元出身の方の世間話をする機会を得る。20時頃ホテルに戻り、明日の段取り整理後就寝となる。



※ホテル、JR 線下を潜り温泉街へ



※温泉街散策



※”さんとか”、”うな鼻”でそれぞれ2晩お世話になる

第4節 2日目：2024年3月14日（木）：高山～渚 晴れ

2024年3月14日（木）晴れ、高山本線の旅の2日目は、高山駅から渚駅までの営業キロ20.5kmに挑戦する。下呂駅6時24分の始発（猪谷行）で高山駅に移動する。車窓から雪化粧が見えて来る。特に渚駅を過ぎた辺りからその傾向が倍増する。当初は7時35分発を考えていたが、「昨日高山辺りは雪が降ったらしい」とのホテルの情報を受け、急遽始発に変更した。結果大正解であった。



※いざ高山駅へ、下呂駅で卒業生へのメッセージ



※高山駅に向かう際の車窓からの風景

本日の各駅舎立ち寄り時刻

高山(7:41)～飛騨一宮(9:55)～久々野(くぐの、12:00)～渚(14:33)

①高山駅に10分位立ち止まり、種々のアングルからこの駅周辺の風景を撮影してから、飛騨一宮駅を目指す。高山駅界隈の歩道は雪を大半除去していたが、市街地を出て山間に向かう辺りから雪道となる。滑らないよう用心して歩く。積雪は5cm位が大半で日陰部分は10cm位の箇所が所々にあった。5cm位の歩道は爽快な気分で歩けたが、一部氷ついた歩道や積雪10cm位の歩道には細心の注意を要した。2000年5月からウォーキングを開始して以来、初めての雪道歩きとなり、終日感動と不安での歩きとなった。営業キロ6.9kmの道のりを2時間14分要し飛騨一宮駅に到着する。



※高山駅



※高山駅

この区間のメモは次の通り。7時53分、高山赤十字病院前通過。8時13分、右手に森彦踏切。8時18分、赤石口バス停通過。8時23分、山王バス停（濃飛バス）通過。8時25分、国道41号線に合流。この辺りから山間の風景となる。9時38分、下呂47km、美濃加茂119km、名古屋153kmと記した看板前を通過。8時52分、JR線を跨ぎ鉄道の右側となる。9時3分、歩道は本格的な雪道となる。ただし、道路は雪なし。9時12分、高山市一之宮という標識前を通過。9時18分、JR線を跨ぎ、鉄道の左側となる。9時23分、臥龍の郷バス停前を通過。9時35分、下呂43km、美濃加茂115km、名古屋149kmと記した標識前を通過。9時46分より万歩計で136歩ある一ノ宮橋（宮川）を渡る。この橋を渡った先に飛騨一宮駅があった。丁度下り列車がやって来る場面に遭遇する。



※飛騨一宮駅への路



※飛騨一宮駅



※飛驒一宮駅

②飛驒一宮駅を踏破し、一ノ宮橋を渡った後、国道には戻らず、桜並木が続く土手を歩く。桜並木が終わると、踏切にぶつかる。地図を確認したところ、この踏切を渡った場合、相当大回りをしないと久々野駅には行けないと察知する。桜並木を歩いたため、500m位誤った方向に進行していた。ここで28分のロスタイムを要し、飛驒一ノ宮の住宅地通り（歩道の雪は殆どなし）を歩き、再度国道41号線に10時23分合流する。その先に1,863mある宮越トンネルがあった。うっかりして歩行禁止看板があるにも関わらず、歩道もあったので、このトンネルを歩くこととする。しかし、あるドライバーからの通報があり、

トンネル通過の手前で警察官がやって来て、「このトンネルは歩行者通行禁止です。看板が見えませでしたか」との尋問を受ける。「すみません。雪道で注意力が散漫しており、看板を見逃しました」と回答。「これからもこのようなトンネルがあると思いますが、交通ルールを順守し、注意して歩いて下さい」との指導を受ける。「申し訳ありませんでした」と丁重に言及し、トンネル事件は解決する。確かに、トンネルの出口には”歩行者侵入禁止”の看板があった。最近の国道でバイパス化した国道は、これまでの歩きを通じ、何度も通行禁止の体験をしたのでよく理解できた。雪道とは言え、”歩く鉄道作家”として深く反省の瞬間であった。



※桜並木から国道 41 号に戻る



※宮峠トンネル



※歩行者侵入禁止の標識



※迂回して原点に戻る

このトンネルを出ると、積雪の箇所が多少緩和された。その分凍った箇所が多くなり注意力を要した。国道41号線を直進すればよかったのだが、左手に道路には跨る鉄橋が見えたので、通り過ぎたと錯覚し、大きく迂回する無駄な歩きをする。この歩きにより、10分位ロスタイムが生じる。国道にある原点には11時48分に戻る。この原点から暫く歩くと、賑やかな商店街となる。その先に久々野駅（12時）があった。駅前の食堂で、今回の旅で”みかどや”にて初のランチタイム（ざるそば）とする。20分位休息し、この店を後にする。



※久々野駅（高山本線で一番標高が高い駅舎）



※みかどやでランチ

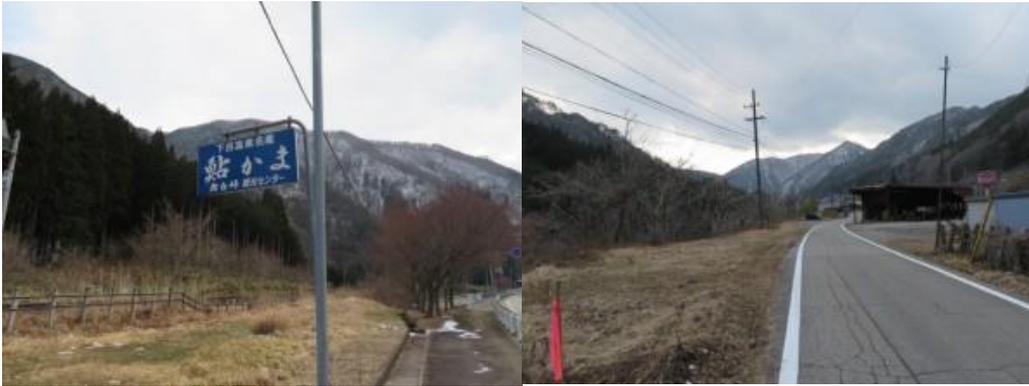
③12時54分、JR線下を潜り鉄道の左側となる。雪道は所々となる。13時30分、JR線を跨ぎ鉄道の右側となる。13時36分より、万歩計で517歩ある木賊洞（くつさぼら）洞門を通過する。この洞門を過ぎると、雪道は解消する。13時53分、左手に上り特急列車が通過して行く。13時56分、下呂30km、美濃加茂102km、名古屋136kmと記した道路標識前を通過。14時3分、長淀バス停前を通過。14時7分より、万歩計で223歩ある長淀橋（飛驒川）を渡る。14時15分。飛驒街道なぎさ道の駅がある。電光掲示板によると、只今の温度は6℃とあった。14時29分、第4益田街道踏切を横切り、鉄道の左側となる。その先に渚駅（14時33分）があった。次の下呂方面行きの列車は15時22分で49分の待ち合わせ時刻となった。この時間帯、鉄道関係の職員3名がやって来てレールの点検作業する場面に遭遇する。この駅に駅舎記録簿があったが見逃す。待ち時間を利用し、メモしたかったのだが。誠に残念であった。



※渚駅への路



渚駅への路



※渚駅への路



※渚駅



※渚駅

④下呂駅には16時9分到着。温泉に浸り、大相撲を見て寛いだ後、うなぎの専門店”うな昇”で英気を養う。そして、明日の歩きの準備をして就寝となる。本日は想定外のメイクドラマに遭遇したが、充実した一日であった。



※うな昇で英気を養う